

自分を見つめることからはじめよう（平成28年度修了式校長式辞より）

みなさんおはようございます。

早いもので、今日が平成28年度の最終日、修了式となりました。

皆さんにとってこの一年は、どんな一年だったのでしょうか。

春休みは非常に短いのですが、一年を振り返り、反省をし、そして新年度の目標を立てるには十分な時間です。

ぜひ、振り返りと展望、お願いしますが、その際、4月の始業式でお話したことを思い出してほしいと思います。それはこんなお話しでした。

一つは、学びについてです。学びの手法、こういうことに注意して勉強してほしいということをお話しました。その際、書経の「教うるは学ぶの半ばなり」を紹介しました。この意味は、「人に教え理解させることは、半分は自分にとっての勉強でもある。」ということです。

考える、学ぶという行為は、あくまでも自分自身の問題ですから、独り善がりも許されますが、人に教えるとなると、相手に対して責任が生じます。いい加減であったり、あいまいであったりでは許されません。自分が理解していないことは人に説けませんから、相当の準備が必要になります。そのことが、自分の勉強にもなる、むしろ、深い学びになる、ということです。

人に教えることが、どんなにいいことか、については、他にもたくさんの方がその大切さを訴えています。

「教学相長(教学あいちょうず)」(礼記㊦㊦ 学記㊦㊦)

「教えることは2度学ぶことである」19C 仏モリスト・エッセイスト ジョセフ・ジュベール

「人は教えることによって最もよく学ぶ」セネカ 古代ローマ政治家

今、「主体的・対話的で深い学び」いわゆる、アクティブラーニングは時代の要請ですが、「人に教えること」は、この実践の充実のために、究極的な手法と考えるべきもの、これからの学びの本質でもあると考えます。

教えることは、定着を確実なものにし、知識の整理と表現力の養成、コミュニケーション能力の養成、さらには受験は団体戦の実践にもなっています。皆さん方で大いに教え合い、学び合い、学習を深めていってください。

4月の始業式にあたり、人に教えることの意義・重要性について、このようなことをお話ししました。これからも継続して留意すべき大事なことから、覚えている人も、忘れていた人も、ここでもう一度再確認してください。

皆さんは、どれくらい考えて、そして、行動してくれたのでしょうか。

また、4月は決意のとき、その決意をいつまでも失うことなく、この一年頑張ってくださいといいましたが、失わずにがんばれたのでしょうか。

さて、今日が、最後の挨拶ということで何を話そうか、迷いましたが、3つのCについて話すことにしました。

一つめはチャレンジのC。

とにかくやってみること、やる前から出来ないから、とか言ってやらないことのないようにしてほしい、自分で自分の可能性に限界を作って、やめてしまうということのないように。ということです。

こわがらず、出来ないことに挑戦せよ。出来ることを何度やっても向上はない。向上とは、できないことに取り組んで、失敗して、失敗して、そうして、突然出来るようになるものだからです。

チャレンジ精神を持ち続けて、そして怖がらずにトライしてください。

論語の中に、孔子が、「私は力不足で先生について行くことができません」という弟子の 冉求（ぜんきゆう）に、励ました言葉を紹介します。

「力足らざる者は中道にして廢す。今、女（なんじ）は画（かぎ）れり」
本当に力がなければ、これまで本荘高校でやってこれたはずがない。おまえは自分で駄目だと、自分の力に自分で限界をつけているだけのことで、実際は力があるのだ。だって、本高の生徒じゃないか。」

「今、女は画れり」皆さんは、決して画ることのないように、即ち、チャレンジしてください。

目標を持って、チャレンジし続けていけば、チャンスが出てきます。チャンスのCが、2つめのCです。チャンスは誰にでもやってきます。でも残念なことに、気づかない人が多いのです。

「チャンスとは準備の出来たものだけに微笑む」（ルイ・パスツール）という言葉があります。チャンスの神様の話をみなさんにしたことがありましたね、前髪ぼうぼうで、後ろがつるつるの美少年の神様カイロスのことですよ。

チャンスとは待ち構えていなければ決して捕まえられない、つまり準備の出来た人にしか訪れたチャンスはつかめないのです。準備の出来ている人とはチャレンジし続けている人のことです。

そして、チャンスをつかめば、3つめのC、チェンジ、変化つまり成長のCになります。チェンジは突然やってきます。

チャレンジし続けていれば、チャンスがやって来る。準備の出来ている状態だから、容易にそのチャンスをつかまえ、生かしてチェンジが起こる。チェンジこそが進歩、進化であり、自分の成長に繋がるということです。

3つのCを話しました。

チャレンジしていれば、チャンスがやってくる、チャンスが来たらそれを活かして、チェンジできる、そういうことです。

では、肝心のチャレンジはどうすればいいのか、チャレンジし続けるには何が必要か、が、問題となります。

それは、ずばり、「志」です。これまで、何度も「有志竟成」という話をしてきました。これは、「志有るものは事竟いに成る」、志を持って努力するならばきっと成るという意味でしたね。

志が有って、3つのCをきちんとすれば、きっと成る、ということです。従って、「志」、すなわち、「成りたい、こうありたい」という強い目標、

目的を持つこと、それが一番重要なのです。

では、「志」を持つにはどうすればよいか。

私は、自分がその道を進むことによって、自分の人生が豊かで有意義なものになること、そういう道を見つけること、だと思えます。

武者小路実篤の言葉に、「この道より我を生かす道なし この道を行く」があります。これは、「自分はここで生きるという自分の道を見つけた」ということです。そういう道を見つけること、それが志を立てることだと思いません。

そのためにはどうするか。

自分を必死に見つめることでしょうか。こうやって、考えていくと、きりがありません。でも、大きな川の源流を探るように、段々細くなって、見つけやすくなってきたと思っています。源流、濫觴、その先は、あなたたち自身で考えてください。よく考えてください。

これまでをまとめると、

自分を見つめる 自分を生かす道を見つける 志を持つ チャレンジする
チャンスをつかむ チェンジする 成長する 夢を実現させる

まずは自分を見つめることから始めることになるようですね。

短い春休みだけど、新3年、新2年0学期と考え、4月から力強く歩き出すための準備期間として充実した春休みにしてください。

平成28年度、お疲れ様でした。みなさんのおかげで、本高は実に充実した一年間を送ることが出来ました。ありがとうございました。

来年度が、今年以上に、実り豊かな年となりますよう、心から期待して今年度最後の挨拶とします。

(完)

【伝達式に寄せて、一言】

ただいま、賞状伝達式で授賞されたみなさん、改めておめでとうございました。日頃の努力が報われ、喜びもひとしおと思えます。

放送部の東北大会奨励賞は、久しぶりの快挙

科学部の銀賞、2回目ベスト5も、快挙です。

本日の表彰に間に合わなかった柔道部の全国選拔出場、同じくボート部の全国選抜での活躍、特に、女子ダブルスカル準優勝をはじめとする活躍も大きな快挙です。

受賞されたみなさんは、大いに自信を持って、今後も精進していただきたい。

修了式にこうして頑張りを紹介できることはとてもうれしいことです。一年をいい形で締めくくってくれたと同時に、来年度への大きな激励となりました。本当にありがとうございました。

ここにいる本高生全員が、仲間の頑張りに刺激を受けて、自分のエネルギーに変えて、部活動と言わず、勉強でもみんなで、がんばって行ってほしいと思います。期待しています。

(完)